



愛雪・友雪・親雪フェスティバル! 第31回 八雲さむいべや祭り

2月3日～4日、道立公園噴火湾パノラマパークで八雲さむいべや祭り(主催 実行委)が開催され、両日合わせ約7,000人が来場しました。インフルエンザ流行の影響で来場者は例年より少なかったものの、町内外からの来場者により会場はにぎわいました。今年は、恒例の全長100メートルの氷の滑り台、スノーモービル白熊号のバナナボート・そり列車などのほか、各団体の演奏やダンス、もちつき囃子、雪中駅伝などが行われたほか、屋内外では八雲の食材などを使った「二海カレー」「北里八雲牛のねぎ焼き」「風の子もちの雑煮」などが振る舞われました。また、今年は、例年にない試みとして前夜祭には「パーツ・イシバ」によるパントマイムショー、本祭には雪玉を投げるストラックアウト、スノーフラッグ大会、雪合戦大会など新たな催しもあり雪を親しむお祭りとなりました。



平時の備えを心がけて! 熊石地域冬期避難訓練、防災講演会

1月23日、熊石地域で北海道および北海道立総合研究機構の協力のもと、GPSを用いた冬期避難訓練(町主催)が行われ、関内地区と相沼2区、3区の町民約50名が参加しました。参加者は大津波警報の発令を知らせる防災行政無線の放送を合図に、歩行速度を測定するためのGPSを持って、徒歩で最寄りの避難場所を目指しました。また、訓練終了後は、ふれあい交流センターくまいし館で、室蘭工業大学大学院工学研究科有村幹治准教授による防災講演会が行われ、約100人が参加しました。講演では東日本大震災や過去の地震・津波災害を振り返りながら、「自助」の徹底と、平時からの備えの重要性を訴えました。



働くことの意味を学ぶ! 冬休みボランティア体験学習

1月11日、八雲町社会福祉協議会主催の冬休みボランティア体験学習が開催され、熊石中学校の生徒20名が参加しました。生徒たちは、熊石デイサービスセンターでの高齢者とのふれあいや、熊石保育園・相沼保育園の園児との交流などに汗を流し、働くことや社会人としての自覚のほか、人との交流の大切さを体験しました。

